



NEWSLETTER

武庫川女子大学
女性研究リーダー育成推進センター

vol.6
2026.9



女性研究リーダー
育成推進センター
制度環境推進部門リーダー

中村 明美

MESSAGE

本学では他の私立大学に先駆け、学院長直轄組織の男女共同参画推進部門を設置し（現人事部）、文部科学省科学技術人材育成費補助事業助成金や学院経費を活用しながら、教育研究支援員制度や認可外保育施設の運営（ラビークラブ）、夏期学童保育の試行、ベビーシッター券配布、各種相談・支援、セミナー・ランチタイムミーティングなど多様な支援を拡充してきました。日本の研究現場では、依然、性別役割分業やライフイベントの影響で上位職ほど女性比率が下がる課題が存在しています。国の基本計画等においても女性や若手研究者の活躍推進が進められる中、安定してキャリア継続できる制度基盤の強化は急務です。出産や育児、介護、病気などの経験は、研究や自分自身に新たな視点をもたらす貴重な「体験知」となります。研究者が生活と研究のバランスを主体的に選択し、力を発揮できるよう全学的な環境整備を進め、次世代リーダーの育成に尽力してまいります。これからも皆様のお声をお聞かせください。

各種支援制度の採択状況

■ 女性研究リーダー研修（在外研修・国内研修）（2027年度）

氏名	所属・資格	研修先	研修期間	研究テーマ
木下 りか	日本語日本文学科 教授	（在外）淡江大学[台湾] （国内）神戸大学	2027年4月1日～ 2028年3月31日	文学テキストにおけるモダリティ形式の選択と レトリックとしての表現効果

■ 架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援（2026年度）

2026年度より大型架橋横断的重点共同研究、大型架橋横断的重点共同研究（グローバル）が新設されました。

種別	研究代表者	所属・資格	研究テーマ
架橋横断的重点共同研究	五藤 佳奈	スポーツマネジメント学科 准教授	マスターズ体操ワールドカップの持続可能な運営モデルに関する研究
	榎並 直子	社会情報学科 准教授	光学センサを用いた文化財石材の非破壊素材組推定手法の確立
架橋横断的重点共同研究（グローバル）	永島 茜	応用音楽学科 准教授	パフォーミングアーツによる地域の魅力創出及び社会課題の解決 —いつでも・さりげなくパフォーミングアーツが存在する街、東京都豊島区及びパリ都市圏の取組から—
大型架橋横断的重点共同研究	大岡 由佳	社会福祉学科 教授	文字情報によるメンタルヘルス不調の予測と気づきを促すための研究
	仁木 洋子	健康生命薬科学科 教授	RNA-seq解析を用いた間葉系幹細胞由来分泌因子の皮膚生理機能改善メカニズムの解明と次世代型化粧品素材への応用

■ 大学院学生フェローシップ制度（2026年度）

氏名	所属
福田 千尋	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 博士後期課程1年
國谷 かおり	食物栄養科学研究科 食創造科学専攻 博士後期課程1年
吉川 里依	薬学研究科 薬学専攻 博士課程1年

■ 教育研究支援員制度（2026年度）

2026年度より「教育支援員制度」と「研究支援員制度」の2つの制度を「教育研究支援員制度」に統合しました。2026年度は、前期27名、後期4名が採択されました。

各種案内

① キャリア・カウンセリング

女性研究者のキャリアパスを支援するために、先輩研究者であるカウンセラーに仕事や進路について相談できる場を設けています。

② 統計コンサルタンシー

2026年度より統計手法に悩む女性研究者が学内の専門家に個別で相談できるプログラムを開始しました。

③ 第4回シンポジウム

2027 2/19 @KM-B109 (大講義室)

出合いがひろく、研究の未来

一人・知・問いがつながるときー

一般
参加可

サイエンス・commons セミナー

3年目を迎える「サイエンス・commons セミナー」では、研究紹介にとどまらず、その背景にある「研究人生の軌跡」や「研究への熱量」に焦点を当てています。どのような出会いや試行錯誤を経て現在の問いに至ったのかを辿り、参加者が新たな学びやつながりを見つけるきっかけとなる場を目指しています。

■開催報告

第1回 6/30 飛行機はなぜ「安全」なのか？
—空の安全を守る国際ルールのおくみ—
〈英語グローバル学科〉古畑真美 講師

第2回 7/16 企業と教育の連携
—家庭科・消費者教育実践例を通して—
〈教育学科〉吉井美奈子 教授

■今後の予定

第3回 9/30 テイカズラ類の分類と緑化植物としての活用
〈景観建築学科〉上町あずさ 教授

第4回 10/22 学校における保健教育の今とこれから
〈健康・スポーツ科学科〉満武華代 准教授

第5回 11/13 からだを支える“亜鉛”のはたらきとその可視化への挑戦
〈薬学科〉萩森政頼 教授



Give a Talk! & Get Published!

今年度より、研究の国際発信を強力に支援する新プログラム「Give a Talk!」と「Get Published!」が始まりました。女性研究者の活躍を後押しすべく、英語での論文執筆や学会発表のスキルを体系的・実践的に磨くワークショップです。専門家による指導を通じ、国際的な研究成果を発信するための確かな自信と技術の習得を目指しています。後期は、「Give a Talk!」「Get Published!」ともに3回ずつ開催する予定です。

■開催報告

Give a Talk!

第1回 5/30 Presentation Structure and Creation

第2回 6/27 Conducting Successful Q&A

第3回 7/25 Creating Engaging and Dynamic Presentations

Get Published!

第1回 6/13 Basic principles for using AI tools effectively in writing

第2回 7/11 Structuring and writing a literature review using NotebookLM



大学院生交流会

2026年5月8日（金）、サイエンス・commonsにて「第1回大学院生交流会」を開催しました。当日は大学院生13名と教職員6名の計19名が参加し、活気ある会となりました。

今回は研究推進センターとの共催で、「論文投稿助成金」や「日本学術振興会特別研究員（DC/PD）制度」、「大学院学生フェローシップ制度」といった各種支援制度の概要や申請方法について詳細な説明が行われました。交流タイムでは、参加経験のある学生が初参加の学生をリードする姿も見られ、終始なごやかな雰囲気の中で、研究や進路に関する有意義な情報共有の場となりました。



ライフイベントと研究活動の両立支援

■ラビークラブ見学Week

学内保育ルーム「ラビークラブ」を学内でより知っていただくために、今年度は4月に「ラビークラブ見学Week」を開催しました。

■ランチタイムミーティング

2026年7月31日（金）、サイエンス・commonsにてランチタイムミーティング「家事の工夫で生み出そう！研究・プライベートのゆとり時間」を開催し、教職員9名が参加しました。

最初に、アドバイザーの磯部美良教授（教育学科）が、自動調理鍋を活用した時短料理の実演を行いました。食材を入れてボタンを押すだけで調理が進む様子を、参加者は興味を持って見入り、「これなら子どもや家族にも手伝ってもらえそう」「家事の時短につながる」「調理中に他の家事ができる」といった声が聞かれました。その後はランチを囲みながら自己紹介を行い、日頃実践している家事の時短テクニックやおすすめレシピを紹介しました。アドバイザーの北村真理教授（食創造科学科）を中心に、献立の立て方や栄養バランスのよい食事づくりについても話題が広がり、家事の工夫の中でも特に食事づくりに関する話題を中心にそれぞれの経験や工夫を共有しながら、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



KAKEN塾

若手研究者の科研費の応募件数、採択率向上を目指して、今年度で4回目となるKAKEN塾を4月から6月にかけて開催しました。15名の受講者は、講師からの説明に耳を傾け、9名のアドバイザー（2024年度、2025年度の受講者で科研費に採択された方）から助言を受けながら、研究計画調書の作成に取り組みしました。

受講者からは「個人戦ですが、伴走者の存在はありがたい。KAKEN塾があることで研究内容は頭の片隅でずっと練ることができているので助かっている」と、好評でした。

昨年度は、KAKEN塾受講者のうち18名が応募し7名が採択されました（採択率38.8%）。今年度は、受講者を対象に塾長（松井徳光特任教授）による「KAKEN塾個別相談窓口」も開設しています。今年度も結果が楽しみです。



事業紹介HP



武庫川女子大学
サイエンス・commons
HP



武庫川女子大学
サイエンス・commons
Instagram

武庫川女子大学 女性研究リーダー育成推進センター

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46

TEL (0798) 45-3506 FAX (0798) 45-3686 E-mail cewl@mukogawa-u.ac.jp